

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年1月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長

(氏名) 山崎 幸治

TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	74,826	0.4	2,594	19.6	2,542	36.1	998	—
21年3月期第3四半期	74,521	—	2,169	—	1,867	—	64	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	47.61	—
21年3月期第3四半期	3.32	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
22年3月期第3四半期	61,630	—	31,675	—	51.4	—	1,313.15	
21年3月期	58,874	—	28,600	—	40.7	—	1,234.91	

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 31,675百万円 21年3月期 23,956百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	5.00	—	6.00	11.00
22年3月期	—	6.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	104,600	3.2	3,000	△15.6	3,100	△8.0	1,500	273.1	71.50

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 一社 (社名

) 除外 3社 (社名

北日本大湯食品株式会社、北日本
月湯食品株式会社、北日本村上食
品株式会社

(注)詳細は、4ページ 定性的情報・財務諸表等 4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 27,700,000株 21年3月期 20,000,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 3,577,871株 21年3月期 600,265株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 20,979,411株 21年3月期第3四半期 19,358,014株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年12月31日）におけるわが国経済は、政策的な内需底上げやアジア地域を中心とした外需の持ち直しなどにより、緩やかな回復基調で推移したとされているものの、11月の政府月例報告において「緩やかなデフレ状況にある」ことが約3年半ぶりに報告されるとともに、雇用情勢の回復の遅れ、円高の進行、株安の影響などにより景気の二番底懸念が広まるなど停滞が続く状況で推移いたしました。

菓子、飲料、食品業界は、天候不順による季節商品の伸び悩みに加え、所得減少の長期化により消費に対する慎重な姿勢が一層強まり、比較的堅調に推移してきた食品も含め消費不振が鮮明となる状況で推移いたしました。

当社グループは第3四半期前半に消費不振の影響があったものの、需要を喚起する積極的な企画提案や地域に密着した店頭での細やかな営業活動に努め、収益の確保に努めてまいりました。また、食品製造企業として安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、消費者ニーズに合った高品質で顧客満足度が高い商品開発やリニューアルの実施、サービスの向上に努めてまいりました。

その結果、長梅雨や秋季の高温傾向等の影響を受けた品目が伸び悩んだものの、ビスケット品目、チョコレート品目、食品品目などが伸張し、売上高は前年同期並みの推移となりました。

また、原材料やエネルギーの価格動向が引き続き安定的に推移したこと、販売費の効率的な使用、商品の荷姿変更などによる運送費の削減、広告宣伝費の見直し、その他コストの削減活動に努めたことなどにより、営業利益、経常利益および四半期純利益は前年同期を上回りました。

以上の結果、売上高は74,826百万円（対前年同期比100.4%）、利益につきましては、営業利益2,594百万円（対前年同期比119.6%）、経常利益2,542百万円（対前年同期比136.1%）、四半期純利益998百万円（前年同四半期純利益64百万円）となりました。

営業品目別の概況

ビスケット類は、合計売上高が49,748百万円となり、前年同期比101.1%となりました。

ビスケット品目は、半生商品群、小麦粉せんべい商品群が伸び悩んだものの、安心感のあるロングセラーブランドを中心にファミリーサイズ商品群、袋ビスケット商品群、パッケージビスケット商品群などが伸張し、全体では前年同期を上回りました。

豆菓子品目は、季節需要商品、新規販売ルート向け商品、催事企画商品などの展開を図りましたが、既存品が伸び悩み、前年同期を下回りました。

キャンデー品目は、企画連動の限定商品、販売ルート限定商品および季節需要商品などに取り組み活性化を図りましたが、既存の袋入り商品が伸び悩み前年同期を下回りました。

デザート品目は、夏場の天候不順の影響を受けたものの、健康志向のニーズを捉えた、ゼロkcalシリーズのカップデザート商品群やひとくちサイズのポーションデザート商品群が順調に推移し、前年同期並みとなりました。

米菓類は、合計売上高が20,668百万円となり、前年同期比101.5%となりました。

米菓品目は、新製品を加えたファミリーサイズ商品群、プチシリーズ米菓商品群が好評をいただきましたが、一部商品のリニューアルの遅れなどにより前年同期を下回りました。

スナック品目は、袋スナック商品群や少容量化のニーズに合ったプチポテトシリーズが好評をいただきました。また、珍味商品群は、チーズ風味豊かなおつまみスナックを新たに発売し、前年同期並みの推移となりました。

チョコレート品目は、アルフォートミニチョコレートシリーズ、ブランチュールミニチョコレートシリーズ、クラッシュルマンドシリーズ等、品揃えの充実を図るとともに、ブランドの強化を図ったテレビコマーシャルの展開などにより、前年同期を上回りました。

チューインガム品目は、3種のアソートガム「アソート3（スリー）」に新味のフィーリングミントを加え、品揃えの強化を行いました。また、ショウガとビタミンC豊富なレモン味を組み合わせた、ジンジャーレモンガムを新たに発売し、スーパーはなのどガムシリーズとともに季節需要への対応充実を図りましたが、フルーツ系商品の伸び悩みにより前年同期を下回りました。

飲料・食品・その他は、合計売上高が4,409百万円となり、前年同期比89.3%となりました。

飲料品目は、健康果実ボイセンベリーを用いた商品や砂糖ゼロのPETボトル入りココア飲料など特徴のある品揃えで活性化を図りましたが、夏場の天候不順の影響や競争激化の状況から前年同期を下回りました。

食品品目は、チョコレートを溶かして飲む粉末ココアとトリュフチョコレートの組み合わせ商品をコンビニエンスストア向けとして新発売いたしました。また、家庭内消費の拡大により、お徳用サイズの粉末ココアが伸張し、前年同期を上回りました。

その他品目では、通信販売は新規顧客の拡大や菓子、飲料、食品以外の商品も新たに取り扱いを始め、堅調な推移となりました。また、自動販売機は、多様な商品を総合的に取り扱うプチモールの設置台数の増加を図り、フルオペレーションシステムによるきめ細かいフォローの充実などに努めました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は61,630百万円となり、前連結会計年度末比2,756百万円の増加となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金が増加した反面、棚卸資産が減少したことと平成21年10月1日付けをもって連結子会社9社と吸収合併を行ったことによるのれんが計上されたことによるものです。負債は29,954百万円となり、前連結会計年度末比318百万円の減少となりました。これは主に、季節変動による支払手形及び買掛金が増加したことと、借入金の返済があったことによるものです。純資産は31,675百万円となり、前連結会計年度末比3,075百万円増加し、自己資本比率は51.4%となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報)

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは3,879百万円の収入（前年同期4,384百万円の収入、対前年同期比88.5%）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益2,411百万円および減価償却費2,572百万円があったことと法人税等の支払額1,582百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,146百万円の支出（前年同期3,901百万円の支出、対前年同期比55.0%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,186百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,632百万円の支出（前年同期429百万円の収入）となりました。これは主に、借入金の返済による支出1,341百万円があったことによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の残高は、前年同期末に比べ16百万円増加し、6,303百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ97百万円の増加となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年6月5日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

当社は、平成21年6月26日開催の定時株主総会での承認に基づき、平成21年10月1日付けをもって連結子会社である北日本巻食品株式会社、株式会社ボンビスコ、西蒲米菓株式会社、北日本大潟食品株式会社、北日本和島食品株式会社、北日本月潟食品株式会社、北日本村上食品株式会社、北日本豊浦食品株式会社及び北日本五泉食品株式会社（以下「本子会社」と総称します。）と吸収合併し、本子会社は消滅しております。

なお、北日本大潟食品株式会社、北日本月潟食品株式会社及び北日本村上食品株式会社は特定子会社に該当しておりましたので、消滅に伴い特定子会社から除外しております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,295	6,199
受取手形及び売掛金	13,675	11,777
有価証券	8	6
商品及び製品	3,461	4,011
仕掛品	482	457
原材料及び貯蔵品	2,805	3,006
その他	2,431	2,352
貸倒引当金	△211	△138
流動資産合計	28,947	27,673
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,297	8,470
機械装置及び運搬具（純額）	9,013	9,309
その他（純額）	6,855	6,468
有形固定資産合計	24,165	24,248
無形固定資産		
のれん	2,094	62
その他	554	626
無形固定資産合計	2,648	688
投資その他の資産		
その他	5,917	6,294
貸倒引当金	△48	△31
投資その他の資産合計	5,868	6,262
固定資産合計	32,683	31,200
資産合計	61,630	58,874

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,848	9,984
短期借入金	2,093	3,105
未払法人税等	540	1,048
賞与引当金	316	837
返品引当金	89	94
その他	7,675	6,609
流動負債合計	21,564	21,681
固定負債		
長期借入金	1,609	1,939
退職給付引当金	5,501	5,461
役員退職慰労引当金	162	191
負ののれん	33	—
その他	1,082	999
固定負債合計	8,389	8,592
負債合計	29,954	30,273
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,386	92
利益剰余金	24,263	23,458
自己株式	△575	△172
株主資本合計	32,111	24,416
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△287	△297
為替換算調整勘定	△148	△161
評価・換算差額等合計	△435	△459
少数株主持分	—	4,643
純資産合計	31,675	28,600
負債純資産合計	61,630	58,874

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	74,521	74,826
売上原価	44,661	43,607
売上総利益	29,859	31,218
販売費及び一般管理費	27,690	28,624
営業利益	2,169	2,594
営業外収益		
受取利息	39	23
受取配当金	40	51
負ののれん償却額	—	0
その他	106	84
営業外収益合計	186	158
営業外費用		
支払利息	51	40
持分法による投資損失	90	—
為替差損	245	94
開業費償却	65	—
減価償却費	—	51
その他	34	23
営業外費用合計	487	210
経常利益	1,867	2,542
特別利益		
投資有価証券売却益	159	—
その他	1	—
特別利益合計	160	—
特別損失		
固定資産処分損	59	45
減損損失	15	10
投資有価証券評価損	988	—
投資有価証券売却損	—	75
その他	2	—
特別損失合計	1,065	131
税金等調整前四半期純利益	962	2,411
法人税、住民税及び事業税	463	1,061
法人税等調整額	△88	151
法人税等合計	374	1,212
少数株主利益	523	200
四半期純利益	64	998

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	962	2,411
減価償却費	2,317	2,572
のれん償却額	23	49
受取利息及び受取配当金	△79	△74
負ののれん償却額	—	△0
支払利息	51	40
持分法による投資損益 (△は益)	90	—
為替差損益 (△は益)	249	95
投資有価証券売却損益 (△は益)	△159	75
固定資産処分損益 (△は益)	59	45
減損損失	15	10
投資有価証券評価損益 (△は益)	988	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,853	△1,902
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,025	728
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,328	862
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△543	△521
その他	804	1,039
小計	5,228	5,431
利息及び配当金の受取額	76	70
利息の支払額	△51	△40
法人税等の支払額	△869	△1,582
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,384	3,879
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,425	△2,186
投資有価証券の取得による支出	△549	△132
投資有価証券の売却による収入	180	205
その他	△106	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,901	△2,146
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,500	—
短期借入金の返済による支出	△1,000	△1,000
長期借入金の返済による支出	△434	△341
配当金の支払額	△167	△188
自己株式の売却による収入	535	—
その他	△4	△102
財務活動によるキャッシュ・フロー	429	△1,632
現金及び現金同等物に係る換算差額	△52	△3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	858	97
現金及び現金同等物の期首残高	5,428	6,206
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,286	6,303

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）において、当社グループは食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類、飲料食品等の製造、販売を行なっております。当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）において、本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）における海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、その記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成21年6月26日開催の定時株主総会での承認に基づき、平成21年10月1日付けをもって連結子会社である北日本巻食品株式会社、株式会社ボンビスコ、西蒲米菓株式会社、北日本大潟食品株式会社、北日本和島食品株式会社、北日本月潟食品株式会社、北日本村上食品株式会社、北日本豊浦食品株式会社及び北日本五泉食品株式会社と吸収合併いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間において、資本剰余金が7,408百万円、自己株式が517百万円増加しており、その他有価証券評価差額金が9百万円、少数株主持分が4,844百万円減少しております。

また、平成21年12月16日付けで自己株式の消却を行いました。この結果、当第3四半期連結会計期間において、資本剰余金が114百万円、自己株式が114百万円減少しております。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が7,386百万円、自己株式が△575百万円、その他有価証券評価差額金が△287百万円となり、少数株主持分は零となっております。

6. その他の情報

販売実績

事業の区分	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	構成比 (%)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	構成比 (%)
ビスケット類 (百万円)	49,224	66.1	49,748	66.5
米菓類 (百万円)	20,360	27.3	20,668	27.6
飲料・食品・その他 (百万円)	4,935	6.6	4,409	5.9
合計 (百万円)	74,521	100.0	74,826	100.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。